

宮城県漁業士会報

海人

K A I T O



第24号 (令和7年3月発行)



北部支部

中部支部

南部支部



三重県漁業士会の視察受入れ



宮城県漁業士会中部支部懇談会



こども食堂での出前授業

宮城県漁業士会

仙台市青葉区本町三丁目8番1号(宮城県水産林政部水産業振興課内)
TEL 022-211-2935 FAX 022-211-2939

漁業士会とは



漁業士制度は、次代を担う漁業後継者の育成・確保を目的として昭和六十一年度に国が制度化したものです。

漁業士になるためには、地域漁業を担う中核的漁業者として、宮城県知事から認定される必要があります。活動経験や年齢に応じて、「青年漁業士」と「指導漁業士」に区分されます。

宮城県漁業士会は平成二年に発足し、令和六年で三十三周年を迎えました。当会は、北・中・南部の三支部に分かれ、研修会や先進地視察を通して会員自身の知識や技術を高めるほか、漁業後継者の育成や魚食普及活動等に取り組んでいます。

今後とも本県水産業の振興に向けて取り組んでいきますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

【会員数(令和七年三月現在)】

青年漁業士	四十五名
指導漁業士	七十三名
合 計	百十八名

会長のメッセージ

会 長 江 刺 寿 宏
(JFみやぎ石巻地区支所)



会員の皆様には、日頃から本会の活動にご理解とご協力を頂いていることに対し厚くお礼申し上げます。

令和六年度は、近年継続している高水温によって、既存魚種の水揚げ不振や生育不良が深刻化しているほか、これまでに宮城の浜では見たことがないような暖水性魚種が多く確認され、生態系の変化や被害が深刻化するなど、目まぐるしく変わる海洋環境に頭を抱えた一年でした。

一方で、本会においては、新型コロナウイルスの蔓延により自粛していた、遠方への先進地視察を再開することができました。

視察先には、高水温によって既存養殖品目の不作が続いていることを踏まえ、宮城県よりも暖かい地域の先進事例を視察するため、三重県へ行ってまいりました。特産品であるアコヤ真珠の生産現場や、宮城の種牡蠣を使った力養殖現場を視察しました。

八月に開催した「北海道・東北ブロック研修会」では、実に十年ぶりの主催県となり、今注目を集めているブルーカーボンクレジットについて学びを深めたほか、近隣地域の漁業活動について情報交換を行うなど、北海道・東北エリアの漁業士同士の繋がりが大変強まる良い機会となりました。

ぜひ、会員の皆様には、青年・指導の別や役職の有無に関わらず、積極的に活動に参加して、自分自身の成長にも役立てていただければと思いますので、今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

新漁業士のご紹介

漁業士の認定

令和六年度の新規漁業士認定式は、六月四日にホテル白萩(仙台市)を会場とし、農業士の認定式と

合同で開催されました。今回は、青年漁業士四名、指導漁業士九名が認定されました。新漁業士の皆様には、池田副知事より認定証と漁業士徽章が交付されました。

また、認定式終了後は、新漁業士と県の水産職員の皆さんで意見交換会を実施しました。

新漁業士の皆様に抱負を語っていただきましたので、ご紹介いたします。



認定式での記念撮影



認定式後の意見交換会

指導漁業士 九名



伊藤 いとう

広樹さん
(JFみやぎ大谷本吉支所)



【漁業種類】ワカメ、ホタテ養殖 採介藻
【趣味】釣り、仕事(海が好きだから)
【抱負】昨年は漁業士会の繋がりのおかげで助けてもらえたことがあった。今後も関係者同士で協力し合いながら課題を解決していきたいです。

後藤 ごとう

章さん
(JFみやぎ石巻市東部支所)



【漁業種類】カキ、ワカメ養殖、アナゴ漁
【趣味】スノーボード、旅行
【抱負】漁業士会の活動に積極的に参加し、知識の習得や、技術を磨きながら、地元漁業の発展に貢献していきたいです。

石森 いしもり

昌洋さん
(JFみやぎ表浜支所)



【漁業種類】カキ、ワカメ養殖
【趣味】スノーボード、卓球
【抱負】指導漁業士として、漁業の知識・技術を磨きながら、地元漁業の発展に貢献できるよう頑張りたいです。

佐藤 さとう

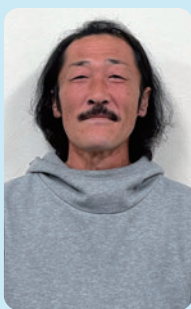
和也さん
(JFみやぎ表浜支所)



【漁業種類】カキ、ワカメ養殖
【趣味】スノーボード
【抱負】指導漁業士として、後継者・若手漁師の育成に努め、地元漁業の活性化に貢献できるように頑張りたいです。

横山 よこやま

正俊さん
(JFみやぎ石巻湾支所)



【漁業種類】カキ養殖
【趣味】釣り
【抱負】何事にも新しいことにチャレンジしながら漁業をしており、これからの地域漁業の発展に貢献できるよう頑張ります。

阿部 あべ

豊さん
(JFみやぎ表浜支所)



【漁業種類】カキ養殖
【趣味】野球、卓球
【抱負】地域の漁業を次世代に残すことができるよう、これからも、漁業士として積極的に活動していきたいです。

木村 きむら

雅光さん
(JFみやぎ表浜支所)



【漁業種類】カキ、ワカメ養殖
【趣味】サーフィン
【抱負】指導漁業士としての自覚を持ちながら、日々の仕事に取り組み、地元漁業の発展に貢献したいです。

木村 きむら

隆之さん
(JFみやぎ表浜支所)



【漁業種類】カキ、ワカメ養殖
【趣味】剣道
【抱負】漁業士会の活動を通じて知識や技術を習得し、地域水産業の発展・活性化に貢献できるように、努めていきたいです。

木村 宏さん
(JFみやぎ仙南支所(亘理))



【漁業種類】ノリ養殖
【趣味】スポーツ観戦
【抱負】指導漁業士として、漁業の知識と技術を磨きながら、地域水産業の活性化に貢献していきたいです。

青年漁業士 四名



村上 昇さん(写真右)
(JFみやぎ気仙沼地区支所)



【漁業種類】ワカメ、カキ養殖
【趣味】釣り
【抱負】海洋環境の変化で従来のやり方が通用しないと実感しており、先進地視察や漁業士との意見交換を通じて他地域の取り組みを参考に、地域の中核となる漁業士を目指していきたいです。

菊田 守一さん(写真左)
(JFみやぎ気仙沼地区支所)

【漁業種類】ワカメ、ホタテ養殖
【趣味】釣り、野球観戦
【抱負】海洋環境の変化により養殖物への被害が拡大しています。他地域の良い取り組みを学ぶため、先進地視察に積極的に参加し、適応策を模索していきたいです。

及川 博海さん
(JFみやぎ歌津支所)



【漁業種類】ワカメ、カキ養殖、刺網、雑漁業
【趣味】釣り
【抱負】海洋環境の変化に対応するため、生産技術の改善に加え、市場や他魚種の動向を注視することが重要だと考えています。漁業士との情報交換を通じて持続可能な漁業を目指したいです。

木村 幸喜さん
(JFみやぎ鳴瀬支所)



【漁業種類】カキ養殖
【趣味】スポーツ観戦
【抱負】地域の漁業を次世代に繋げていけるよう、漁業士として積極的に活動していきたいです。

活動報告



先進地視察(三重県)

指導漁業士 鈴木 芳則
(JFみやぎ唐桑支所)

先進地視察として、令和六年六月十八日から二十日にかけて三重県に行ってきました。新型コロナウイルス流行以降初めての遠方への視察となり、小野寺会長をはじめとする漁業士十名が参加しました。

初日は、三重県水産研究所を視察しました。はじめに、館総括研究員兼課長から研究所の概要を説明いただき、岡野研究員からはカキ養殖について説明いただきました。黒潮の大蛇行による水温上昇や、餌となるケイソウ類の減少が影響し、へい死亡率が高くなっているとのこと、三重県のカキ生産者も我々と同じく、非常に苦しい状況に陥っていることが分かりました。渥美主幹研究員からは、三重県特産のアコヤガイ真珠養殖について説明いただき、真珠が出来る上がる仕組みや高品質な真珠を作る難しさを勉強させていただきました。その後の施設案内では、三重県が生産量日本一を誇るイセエビの種苗生産等について説明いただき、三重県の様々な養殖技術について知見を深めることができました。

二日目の視察では、はじめに坂口

真珠養殖工場を訪問しました。坂口るり子さんの案内でアコヤガイ真珠養殖の現状や生産体制、そして、真珠が持つ魅力や難しさなどを分かりやすく丁寧にご説明いただきました。訪問時は、真珠の元となるピースをアコヤガイに挿入する「核入れ作業」のシーズンであり、作業を間近で見学させていただきました。医療手術さながらの器具で慎重にピースを埋め込む作業は、まさに職人技。長年培われてきた知識と技術こそ、アコヤ真珠が世界的に評価されている理由なのだと分かりました。



アコヤガイの核入れ作業の見学

その後、アコヤガイの養殖筏を案内いただき、どのように養殖・管理しているのかを見学させていただきました。坂口さんからは、貝がデリケートな時期は、筏の近くを通るときに曳き波を立てないよう慎重に航行することや、付着物による餌の奪い合いを防ぐため、貝を毎週掃除するという説明があり、宮城の貝類養殖よりも多くの手間と時間がかかっていることに大変驚きました。

次にミキモト真珠島を訪問し、真珠養殖の歴史や道具、標本、美術品などを見学しました。これまでの視察内容を踏まえ、真珠養殖の奥深さを改めて実感しました。

夕方には、三重県漁業士会の皆様が見交換会を開催してくださいました。三重県は宮城県と同様にノリやカキが特産であり、宮城県産の種牡蠣を多く使用していることから、共通の課題について活発な意見を交わすことができました。特に宮城県沿岸で問題となっているアイゴの被害に対し、三重県では囲い網の活用や、食用としての販路開拓を進めているとの話を伺い、資源活用への視点からも大変学びが多い機会となりました。熱い意見交換を通じて三重県漁業士の皆さんと親交を深めることができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。



三重県漁業士会の皆さんと記念撮影

最終日は、中村善紀漁業士（有限会社丸善水産）の案内で浦村地区の力キ養殖を視察しました。養殖筏の見学時には山下弘将漁業士にもご協力いただきました。中村漁業士の養殖

する力キも宮城県産の種牡蠣を使用しており、近年では餌不足やクロダイによる食害の影響を受けているとのこと。私も同じく力キを養殖する者として、環境変化に対応する難しさに深く共感しました。

そのような中でも、中村漁業士は力キの付加価値向上のため、パン粉付けなどの自社加工に力を入れ、昨今の厳しい環境下においても、どのように利益を生み出していくのかを検討し、前向きに取り組まれている姿が印象的でした。



中村漁業士の力キ養殖の視察

全国的に影響を与えている環境変化について、宮城より南方である三重県の現状がよく分かり、様々な対策に取り組んでいる事例を視察できて大変学びの多い三日間となりました。

令和六年度 東北・北海道ブロック研修会

副会長 水間 健二
（みずま けんじ）

（JFみやぎ塩釜地区支所）

令和六年八月二十九日・三十日の

二日間において、東北・北海道ブロック研修会を開催しました。

今年は、十年ぶりに宮城が主催県となり、ブロック内の皆さんを仙台市にお招きしました。

基調講演では、講師としてジャパンブルーエコノミー技術研究組合から桑江理事長にお願いいただき、ブルーカーボン制度について、実例を交えながら詳しく説明していただきました。

各県からの活動報告では、全国デイスカッションテーマ「漁業就業者や後継者の育成・確保について、漁業士ができること」について様々な取組内容が報告されました。

翌日の現地視察では、宮城県水産技術総合センター種苗生産施設を視察し、岩渕技術主査から宮城における資源管理型漁業への取組の説明や、アワビ、ホシガレイ等の種苗生産・中間育成の設備を見学し、「つくり育てる漁業」の重要性を再認識しました。



ブロック研修会と現地視察の様子



支部だより

支部だよりでは、北・中・南部の各支部の活動や浜で注目される漁業士の活動をご紹介します。

北部支部

宮城県気仙沼地区農業士会との交流会

当支部では、令和七年二月十三日に農業と漁業で共通する課題解決を目的として、宮城県気仙沼地区農業士会との交流会を開催しました。

初めに、気仙沼地方振興事務所農業振興部地域農業班、清水俊郎技術次長より「農業における担い手確保の現状等について」と題して話題提供をいただき、農業における新規就業者支援に関する補助金や農業種別の所得の違いなどについて詳しく知ることができました。

話題提供後、両産業間で共通する課題である「担い手確保」、「環境変化への対応」、「補助金や支援制度の活用」の三つのテーマについて意見交換を行いました。「担い手確保」については従事者の高

齢化と後継者不足の現状が共有され、要因の一つとして環境変化等による年収の減少があるという共通認識がありました。「環境変化への対応」については、農業では害獣の増加や作物の不作、漁業では生産物のへい死や漁獲される魚種の変化等が挙げられ両者共に急激な環境の変化への対応に苦慮していました。これら二つの課題に対する「補助金や支援制度の活用」については農業側からは県の新規就業者向けの就業体験制度である農業大学校や牛の飼料価格高騰に対する補助金の利用、漁業側からは「みやぎ漁師力レッジ制度」の活用が挙げられました。

今回の交流会では積極的な意見が交わされ、有意義なものとなりました。今後も定期的に交流会を開催して親交を深め、協力して課題解決の糸口を探っていきたいと思います。



意見交換の様子

三重県漁業士会先進地視察の受け入れ

令和六年九月四日から二日間にわたり、三重県漁業士会の視察の受け入れを行いました。同年五月に三重県への視察に行った際に、三重県の漁業士から、本県の様子も是非見てみたいという声があったことから実施に至ったものです。

一日目は唐桑地区の畠山政也青年漁業士の協力により、カキ・ホタテガイ養殖場の視察を行いました。唐桑地区のカキ養殖では密度を高くし過ぎないこと、定期的に場所を変える等の工夫により、大きさが品質を維持しています。高水温の影響により付着物が多い近年では特に、温湯処理が品質向上に貢献しました。ホタテガイ養殖では、高水温や付着物の影響で水揚量が減少しており、どのように対応していくかが重要な課題となっています。三重県ではカキに対して温湯処理の代わりに、真水に一時間程度漬ける淡水処理を行うそうです。本地域では付着物として扱われるムラサキイガイですが、三重県では量が少ないことに加え、釣り餌として需要が高いとのことでした。



ワカメ資機材の視察

二日目は歌津地区の最知隆指導漁業士、志津川地区の工藤忠司青年漁業士協力により、ワカメの加工・作業場の視察を行いました。ワカメの刈取り手法や塩蔵処理、専用機械の使用方法等について説明しました。三重県では脱水機を使用していないことや食害を前提とした養殖を行うなど、両県間で処理や養殖方法に違いがありました。

今回の受け入れでは、三重県の漁業士の方々に本県の養殖現場を知っていただくとともに、三重県の養殖の現状も共有していただきました。高水温対策の鍵となる情報を交換できたほか、互いの関係性を深めることができた有意義な受け入れとなりました。三重県への視察と視察の受け入れで築いた両漁業士会の繋がりを今後も大切にしていきます。

中部支部

漁業士会中部支部研修会

令和六年五月三十一日に石巻市内を会場として研修会を開催しました。当日は、会員約二十名が参加し、講師として株式会社ダ イセルの樋口暁浩氏をお迎えし て、「酢酸セルロース樹脂CAF BLO®の環境マテリアルとしての 取り組み」生分解性プラス チックの基礎からカキ養殖パイ プ実証状況紹介」と題してご講 演いただきました。



中部支部研修会の様子

講演では、近年、環境問題の一 つとなっている「海洋プラスチック」を低減するための対策として、微生物によって分解される生

分解性材料の開発及び養殖現場での実証試験の取り組み状況についてご説明いただきました。

参加した漁業士からは、「海洋資源を持続的に利用するためには、漁師自らが海洋汚染の防止・削減に取り組むことが重要だと改めて認識した」等の感想が寄せられ、環境に配慮した持続可能な水産業について考えるきっかけとなりました。

宮城県漁業士会 中部支部地区懇談会

当支部では、漁業士及び宮城県漁協青年部員等が漁業振興等における問題について学び研鑽するとともに、相互の情報共有の活性化を図ることを目的に地区懇談会を開催しています。今年度は、令和七年一月十日に開催し、漁業士九名、青年部員五名が参加しました。

懇談会では、近年、宮城県沿岸域で黒潮系水の極端な北偏や高い気温により海水温上昇の傾向が強まっていることから、特に令和五年の秋以降、養殖生産物のへい死と高水温による影響との関連を指摘する声が多く聞かれて いる状況を踏まえ、宮城県水産技

術総合センターの石川哲郎氏と宮城県東部地方振興事務所水産漁港部の鈴木隆史氏を講師にお迎えし、宮城県の海洋環境と水産資源の動向や、養殖漁場における鉛直の水温情報や水産物の斃死状況をモニタリングした調査結果について話題提供いただきました。

また、参加者から、日頃の活動状況や各浜の現状について報告

いただき、今後の高水温対策について、熱心な意見交換が行われ、大変有意義な地区懇談会となりました。



地区懇談会の様子

石巻農業士会・宮城県漁業士会 中部支部交流会

地域の一次産業間での交流促進を図ることを目的として、石巻農業士会・宮城県漁業士会中部支部交流会を令和七年二月十三日に開催いたしました。

第三回目となる今回は、宮城県

漁業協同組合石巻湾支所様ご協力のもと、「万石浦鮮かき工場」と「相澤海苔店」を見学し、カキ及びノリの生産工程・作業内容についてご紹介いただきました。

カキ工場では、カキ剥きを体験させていただいたほか、蒸しカキもお振舞いいただきました。参加した農業士の方々は、初めての力キ剥きに苦戦しつつも夢中になっており、旬の蒸しガキの味に大満足の様子でした。

相澤海苔店では、板ノリができるまでの一連の行程を見学させていただき、普段なかなか見ることのない生産現場を楽しみながら見学いただけたのではないかと思います。

今後も一次産業間での連携した取組の活発化や、新たなビジネスの創出など地域の活性化に繋がる交流会を企画していきたいと考えています。



カキ剥き体験の様子

南部支部

南部支部視察研修

令和六年六月十一日(火)から十二日(水)まで、一泊二日の日程で視察研修を実施し、南部支部の漁業士八名で福島県に行ってきました。

一日目は、現地の相馬双葉漁業協同組合にご協力いただき、ヒトエグサ(アオサ)の養殖工程や、乾燥加工に使用する加工機器の説明をしていただいた後、松川浦にあるヒトエグサの人工造成種場及びアサリ漁場を視察しました。

視察後は、相馬双葉漁業協同組合の青壮年部と意見交換の場を設けていただき、「第二十九回全国青年・女性漁業者交流大会」において水産庁長官賞を受賞した発表内容について、発表者である遠藤青壮年部長より、発表概要を説明していただいた後、現在のお互いの生産状況や取組、課題等について意見交換を行いました。

二日目は、東京電力廃炉資料館及び東京電力福島第一原子力発電所を視察しました。廃炉資料館では、震災直後から現在に至るまでの経過や、今後進めていく廃炉事業の計画について、映像上映や模型、パネルを通して分かりやすく展示されていました。

廃炉資料館見学後は、発電所構内を視察しました。構内では、発電所

の職員より、一号機から四号機の子炉それぞれの事故発生時の状況及び現在の対応状況について解説していただきました。また、ALPS処理水海洋放出による風評被害払拭のために実施している、ヒラメ飼育実験の様子も見学しました。見学中は、疑問点について漁業士から発電所の職員に対し積極的に質問しており、非常に有意義な視察となりました。



視察研修会の集合写真

宮城県農業者会との交流会

令和六年十二月六日(金)に仙台市内で宮城県農業者会と当支部の交流会を実施しました。本交流会は、昨年度五年ぶりに再開され、今回で三回目の開催となりました。

交流会当日は、南部支部の漁業士七名に加え、宮城県農業者会の江刺会長のご臨席のもと、漁業士・農業士がお互い持ち寄った旬の食材の良さを引き立てた「コラボメニュー」を食べながら、お互いの活動内容や、生産状況等について情報交換を行い、交流を深めました。

参加者からは、「南部支部だけでなく、漁業士会全体を巻き込んだ会

にしたい」、「漁業士会・農業士会合同で、知事や副知事との懇親会を実施したい」という意見も挙がりました。

南部支部では、今後も他業種との交流を通じて、水産業をはじめとする一次産業の発展に尽力していきたいと思っています。



交流会参加者での記念撮影



農産物×水産物のコラボメニュー

こども食堂への食材提供及び魚食普及活動

南部支部所属漁業士によるこども食堂での取組についてご紹介い

たします。ノリ養殖業を営む尾形一彦指導漁業士(ＪＦみやぎ宮戸支所)は、こども食堂に対し、味付けノリの提供を行いました。提供先のこども食堂からは、感謝の言葉が寄せられています。

同じくノリ養殖業を営む千葉周指導漁業士(ＪＦみやぎ塩釜地区支所)は、こども食堂にて魚食普及活動を行いました。当日は、生ノリ、乾ノリ及び焼きノリの実物を見せ、比べながら、子供たちにノリの生産工程を説明した後、ホットプレートを用いてノリを焼く体験を行いました。子供たちは、乾ノリを自分で焼き、食べながら、乾ノリと焼きノリの食感・香り・味の違いや、色の変化を感じていました。

南部支部では、今後も漁業士による地域の子供たちへの魚食普及活動を継続し、水産業の魅力発信や、後継者育成・担い手確保対策に取り組んでいきたいと思っています。



千葉周指導漁業士によるノリ焼き体験

宮城県漁業士会参加行事

宮城県漁業士会では、令和六年度に以下の行事に参加・協力しました。

○宮城県漁業士認定検討会

宮城県が実施する漁業士を認定するための検討会。会長が検討委員として対応しました。

○宮城県漁業協同組合青年部総会

会長が来賓として出席しました。

○2025農山漁村パートナーシップ推進宮城県大会

農山漁村の男女共同参画の推進について意識啓発を図り、女性はその能力を発揮できる社会の実現を目指すことを目的とした大会。宮城県漁業士会として大会の後援を行うとともに、水間副会長が来賓として出席し、高橋直哉青年漁業士が講師として登壇しました。



地域資源を活かしたまちおこしについて講演する高橋直哉青年漁業士

○水産青年フォーラム

県漁協青年部が主催するグループ討議形式の研修会。会長が来賓として出席したほか、漁業種類ごとのグループ（分科会）に、合計七名の漁業士を助言者として派遣しました。



漁船漁業・資源管理型分科会
佐藤慎太郎青年漁業士（JFみやぎ仙台支所）を派遣

トピックス

青年漁業士養成講座について

県が主催する「青年漁業士養成講座」が令和六年九月三日・十一日に宮城県水産技術総合センターで開催されました。

本講座は漁業士として活動するために必要な知識を身につける

るものです。今回の受講者は四名で、最新の漁業情報や漁家経営のあり方、漁業士会活動についてなどの講義を熱心に受講していました。受講者の皆様が今後漁業士に認定され、ご活躍することを期待しています。

○受講者

後藤 晃一さん

（JFみやぎ鳴瀬支所）

本田 智章さん

（JFみやぎ石巻湾支所）

鈴木 一樹さん

（JFみやぎ石巻市東部支所）

佐伯 智宏さん

（JFみやぎ仙南（亘理）支所）



講義の様子

退任漁業士のお知らせ

令和五年度末までに指導漁業士認定期間が終了し、退任された方は次のとおりです。

○令和六年度任期満了

行場 博文さん

（JFみやぎ志津川支所）

内海 信吉さん

（JFみやぎ塩釜地区支所）

これまでの漁業士としての活動に感謝申し上げます。

退任される皆様には、来年度、感謝状と記念品が贈呈されることとなっています。

「みやぎ漁師カレッジ」が開催されました

県が漁業の担い手育成・新規就業者確保のため開催している「みやぎ漁師カレッジ」において、座学や漁業現場の講師として漁業士の皆様にご協力いただきました。

令和六年七月一日から令和七年二月二十一日まで開催された長期研修では、新規就業希望者三名、漁業後継者四名、就業者六名の十三名が参加し、県内養殖業や漁船漁業、ロープワーク等に関する座学や、各研修生が希望する場

所での専門研修を受講しました。
一級小型船舶操縦士などの資格も取得し、研修修了後、研修生は県内漁業の各現場に就業しています。

また、令和六年十月二十六日・二十七日、令和六年十二月七日・八日、令和七年二月一日・二日の各二日間開催された短期研修では、宮城の漁業に関心のある計二十一名が集まり、宮城の水産業の概要等の座学、カキの水揚げ作業、ワカメの刈り取りなどを体験しました。



ノリ加工場の見学(短期研修)

○ご協力いただいた漁業士の皆様(順不同)

〓長期研修〓
後藤 修 指導漁業士
平塚 友洋 青年漁業士
高橋 直哉 青年漁業士

〓短期研修〓
後藤 修 指導漁業士
鈴木 甲泰 青年漁業士
赤間 俊介 青年漁業士

「みやぎ漁師カレッジ」は来年度も開催される予定です。新規就業者の雇用及び本県水産業のPRの機会になりますので、ご協力いただける漁業士の方は県事務局までご連絡ください。

みやぎ漁師 カレッジPR動画

ロングver.
(6分程度)



ショートver.
(15秒程度)



「みやぎ水産の日」x

宮城県漁業士会

県では、毎月第三水曜日を「みやぎ水産の日」と定め、県漁協や販売店等と連携して、県内水産物の魅力を発信する取組を行っています。

各支部で「みやぎ水産の日」にあわせた販売会などを行っており、県産水産物をPRする機会になりますので、興味のある漁業士

の方がいましたら、所属の支部事務局にご連絡ください。



宮城県漁業士会ロゴマークを
ご活用ください！

宮城県漁業士会では、漁業士の認知度向上(P.R.)と漁業士が生産した商品の付加価値向上を目的として、ロゴマークを作成し、その活用を推進しています。

宮城県漁業士会の認知度向上(P.R.)を目的とした取組(名刺、封筒、ホームページ、店舗入口への掲示等)、商品パッケージへの使用、及び商品の販売促進等で幅広くご利用いただけます。詳しくは所属の支部事務局にご連絡ください。



浜のリーダーが
育てた美味いもの



浜のリーダー
自慢の美味いもの



江刺寿宏会長、荻浜漁港にて

海人はホーム
ページでも
ご覧いただけます。



宮城県漁業士会

海人編集委員(敬称略)
北部委員 小野 具大
中部委員 江刺 寿宏
南部委員 水間 健二

海人では、皆さまからの原稿をお待ちしています。内容は自由で、四〇〇字詰め原稿用紙二枚以内にとめ、漁業士会事務局までお送りください。